

平成25年度

発達障がい者就業支援
コーディネーター事業報告
(26年3月末現在)

大阪市障がい者就業・生活支援センター

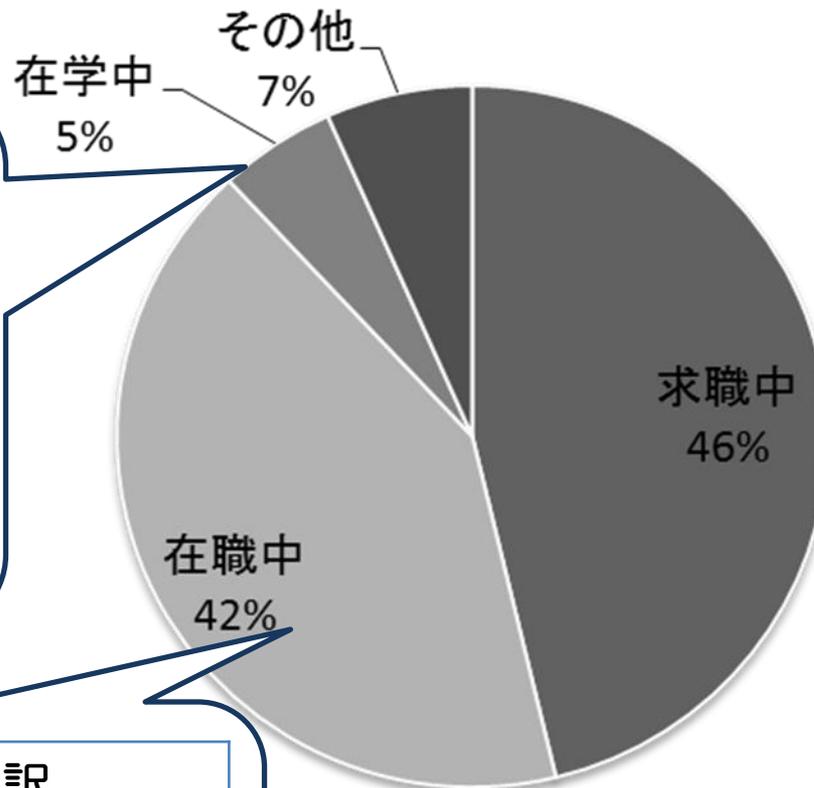
(1) 平成25年度 登録者の状況

(以降のデータは平成26年3月31日のもの)

登録者数		225名
内訳	①前年度からの 継続支援者	131名
	②平成25年度 新規相談者	94名

- ・「登録者」とは、継続した就労支援を希望している者
- ・4年以上継続して関わっている登録者の存在→長期にわたる支援の必要性

①登録者の状況



在学者の内訳

高等学校	4名
専門学校	2名
専修学校	1名
大学	4名
特別支援	1名

在職者の内訳

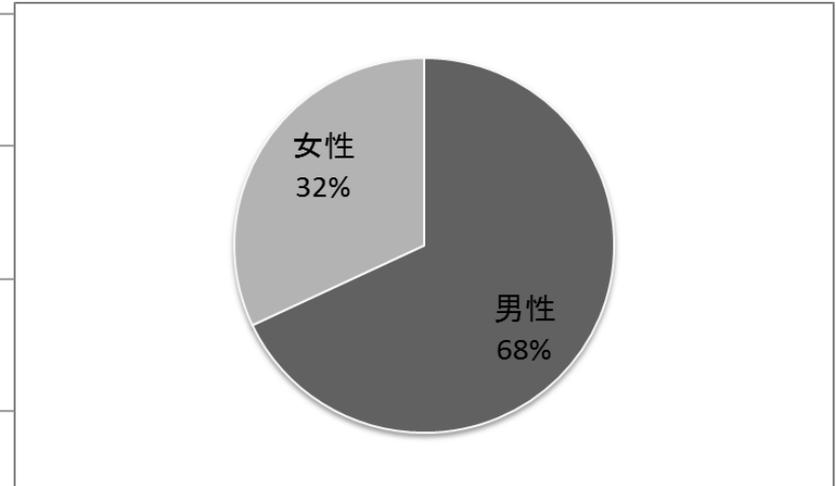
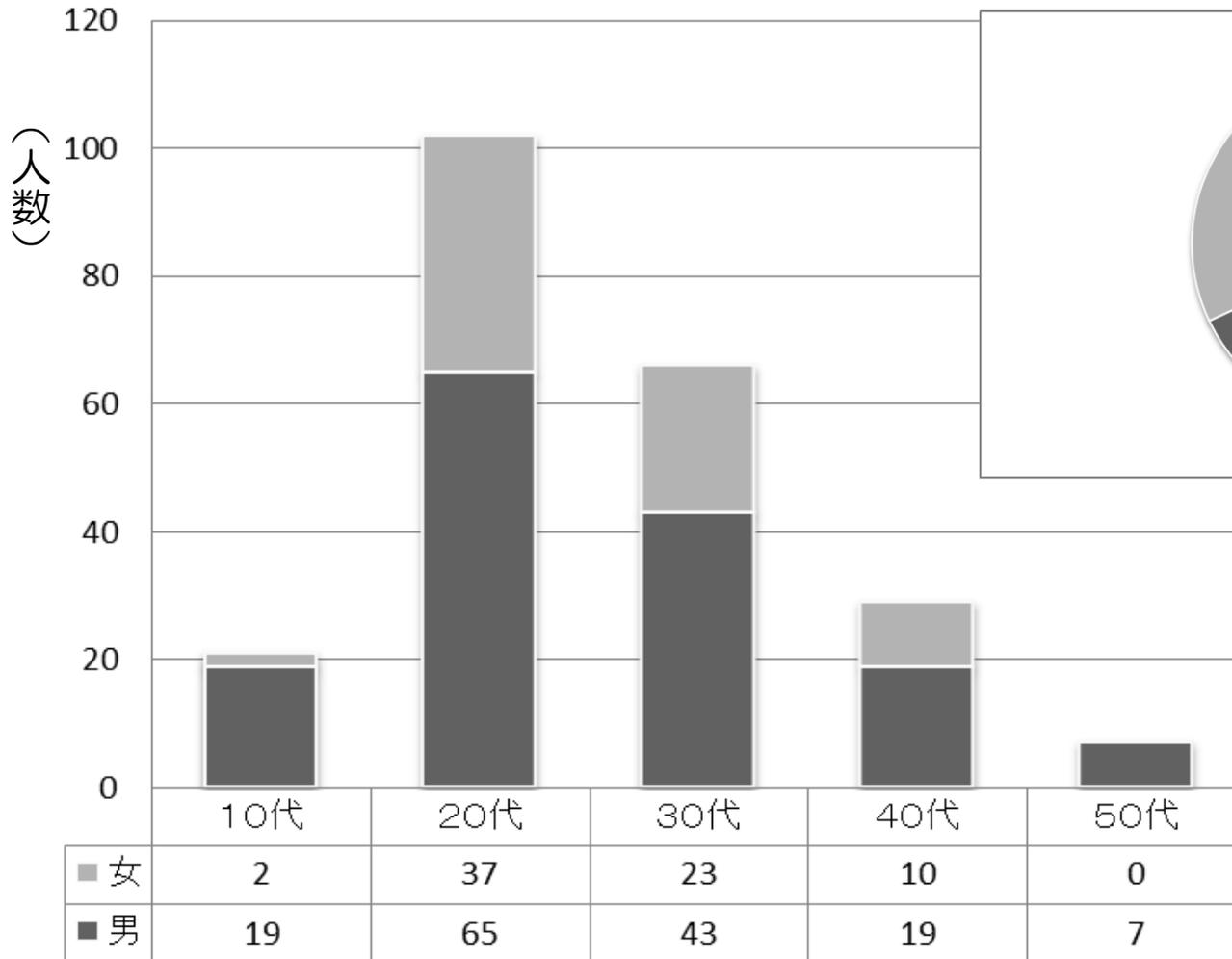
障がい者雇用	68名
一般雇用	24名
一般雇用 (休職中)	2名

人数内訳

求職中	104名
在職中	94名
在学中	12名
その他	15名
合計	225名

- ・就ポツの支援開始後に就労する人は「障がい者雇用」を選択する人が多い
- ・「一般雇用」の人は就職後に障がいに気付いた人、障がいがある事を伝えずに働いている人

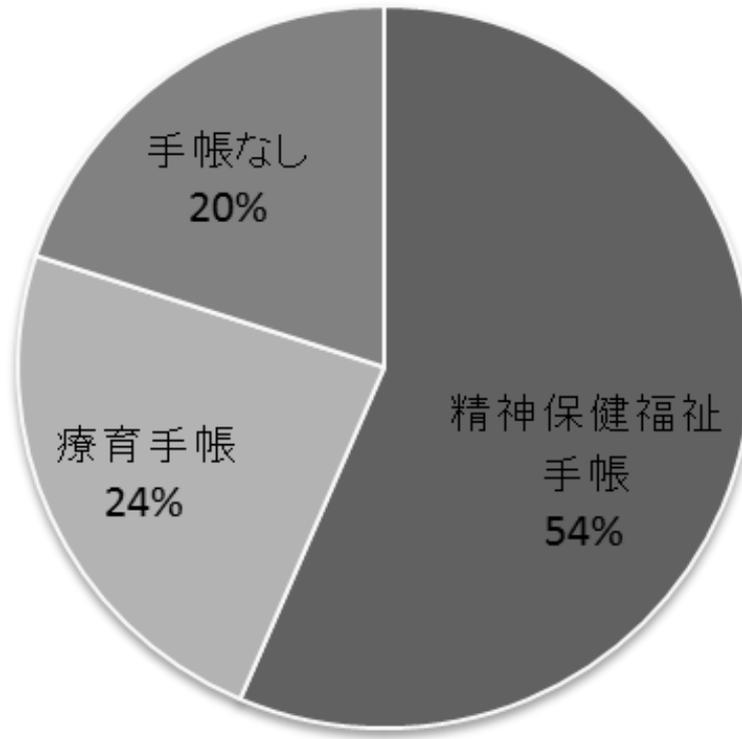
②年齢層



全体の男女内訳	
男性	153名
女性	72名
合計	225名

・ 20代～30代の相談が中心

③所持している手帳の種類



- ・ 診断後、就職活動の見通しをつけるために相談に来る人は手帳を所持していることが少ない。
- ・ 継続して相談をする人は、支援機関との関わりの中で障がい者手帳取得を検討し、取得を決めている。

	継続支援者	平成25年度 新規相談者	合計
精神保健福祉手帳	90名	37名	127名
療育手帳	31名	22名	53名
手帳なし	10名	35名	45名

(2) 新規相談者の状況

相談者数の変化

新規 相談者	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
	37名	47名	63名	97名	82名	94名	420名

(人数)

120

100

80

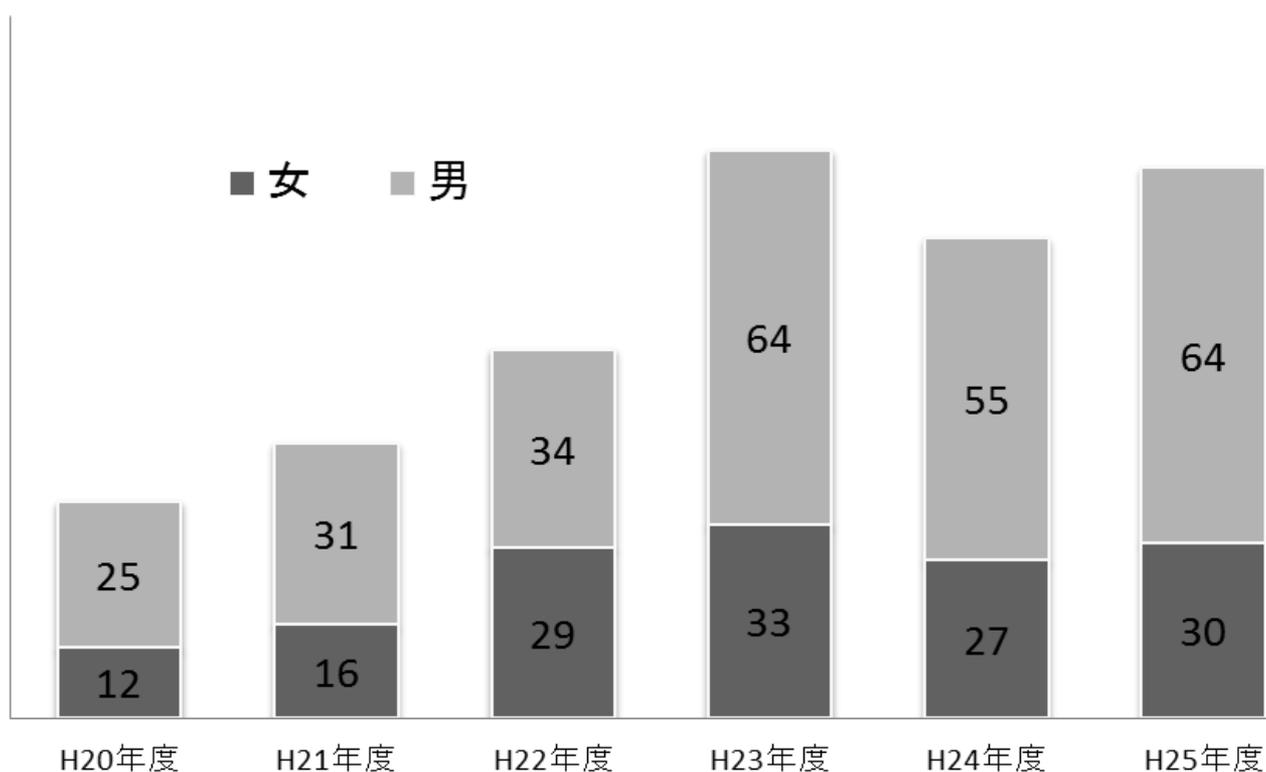
60

40

20

0

■ 女 ■ 男



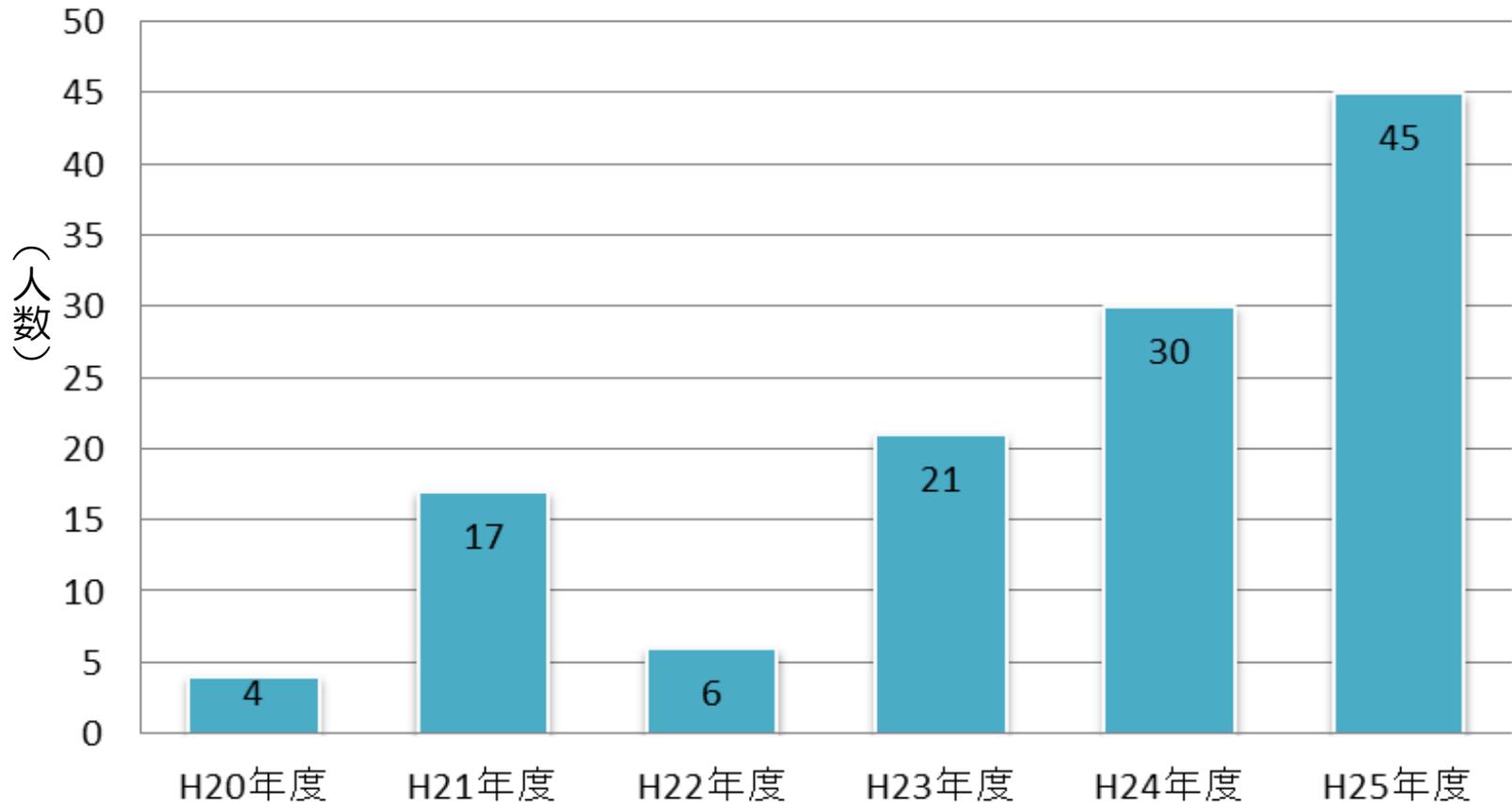
・相談者は昨年度より増加

・発達障がい者を対象とした就労支援サービスは増えているが、その活用方法や組み合わせを相談できる機関が不足。

・発達障がいのある人の中には単独ではサービスにつながっていくことが難しい人もいるため「情報を整理し、必要な窓口につながるきっかけを作る」支援が重要になる。

・就職後に診断された場合の相談窓口がほとんど無いためこの事業で対応している。

(3) 就職者の状況



- ・ 就労前に訓練等の職業準備を行うことで、確実な就労につながっている。
- ・ 職業準備は特性の整理、苦手を補う工夫、人との関わり方の学びなど体験を通しての学びが中心となるので、数か月～数年と時間がかかることが多い。
- ・ 就労継続A型事業所を「ステップアップ」のために利用する場合もある。